

# うまい米づくり情報 第7号

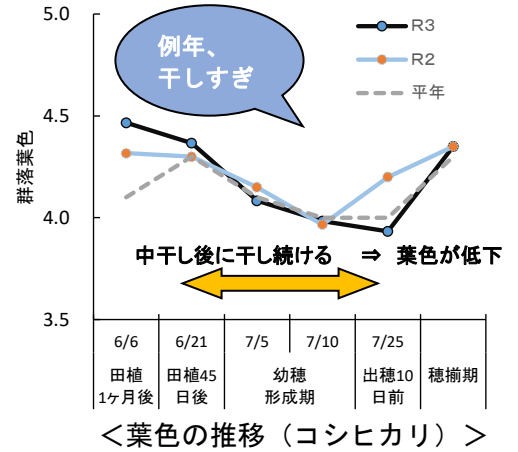
## 水稻の生育状況

早生品種の幼穂形成期は平年並みからやや早く6月25～28日頃と予想されます。

穂肥はほ場ごとの生育量に応じて、慎重に施用しましょう。幼穂形成期以降は「飽水管理」で稲体の活力を維持しましょう（右図）。

今年もカメムシが多く発生しています。特に、大麦跡ほ場周辺の管理されていない畦畔で多く確認されています。7月初旬までに水稻周辺の雑草地だけでなく、大麦跡ほ場周辺等できるだけ多くの雑草地の草刈りをしましょう

令和5年6月30日  
なんと農業協同組合  
砺波農林振興センター



<なんと担い手組織協議会生育調査結果> (令和5年6月22日調査)

品種	田植日		草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉色		葉齢 (葉)		幼穂形成期 (平年)
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
五百万石	5/3	5/6	46.1	49.3	466	461	4.2	4.4	10.8	11.0	6/27頃 (6/27)
雄山錦	5/3	5/6	55.3	58.1	336	373	4.1	4.4	11.4	10.8	6/27頃 (6/27)

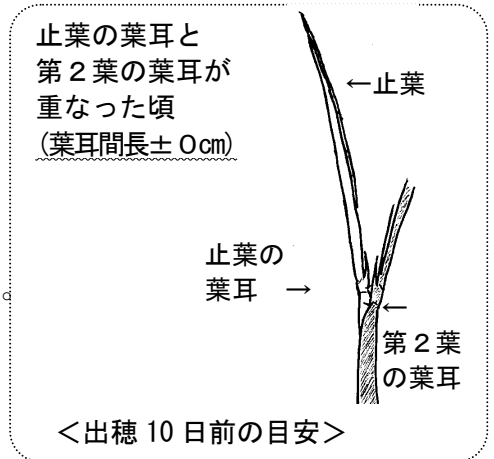
## 当面の管理のポイント

### 1 早生の穂肥

- (1) 肥効調節型肥料 (『LPs 五百万石専用』を使用) の場合
- ・原則、追肥は控えましょう。
  - ・ただし、出穂10～7日前に葉色が「五百万石」では4.3「雄山錦」では4.2より淡い場合は、出穂5～3日前頃に追肥し、穂揃期の葉色を4.5～4.7に誘導しましょう。

追肥3号 7～10kg/10a程度

- (2) 分施肥栽培 (『基肥206』等を使用) の場合
- ・下記の表を参考に慎重に穂肥を施用しましょう。



品 種	幼穂形成期 (幼穂長 2mm)	1回目の生育		肥料名	施肥量 (10a当り)	
		幼穂長	葉色		1回目	2回目 (1回目の1週間後)
五百万石	6月27日頃	8～10mm (幼穂形成期から4～6日後頃)	3.8～4.0	追肥3号	12kg以内	15kg程度
五百万石 (特栽米)				なんと米有機穂肥	10kg以内	12kg以内
雄山錦	6月27日頃	10mm (幼穂形成期から4～6日後頃)	3.8	追肥3号	10kg以内	10kg程度

- ・「葉色が濃い」、「葉がメラついている」場合は施用時期を遅くしましょう。
  - ・「茎数が多い」場合は施肥量を減らしましょう。
- ※特に「大豆跡」および「堆きゅう肥施用」ほ場は注意しましょう。

農作業は熱中症対策をして行いましょう。用水周辺の作業時は転落事故等に注意しましょう。

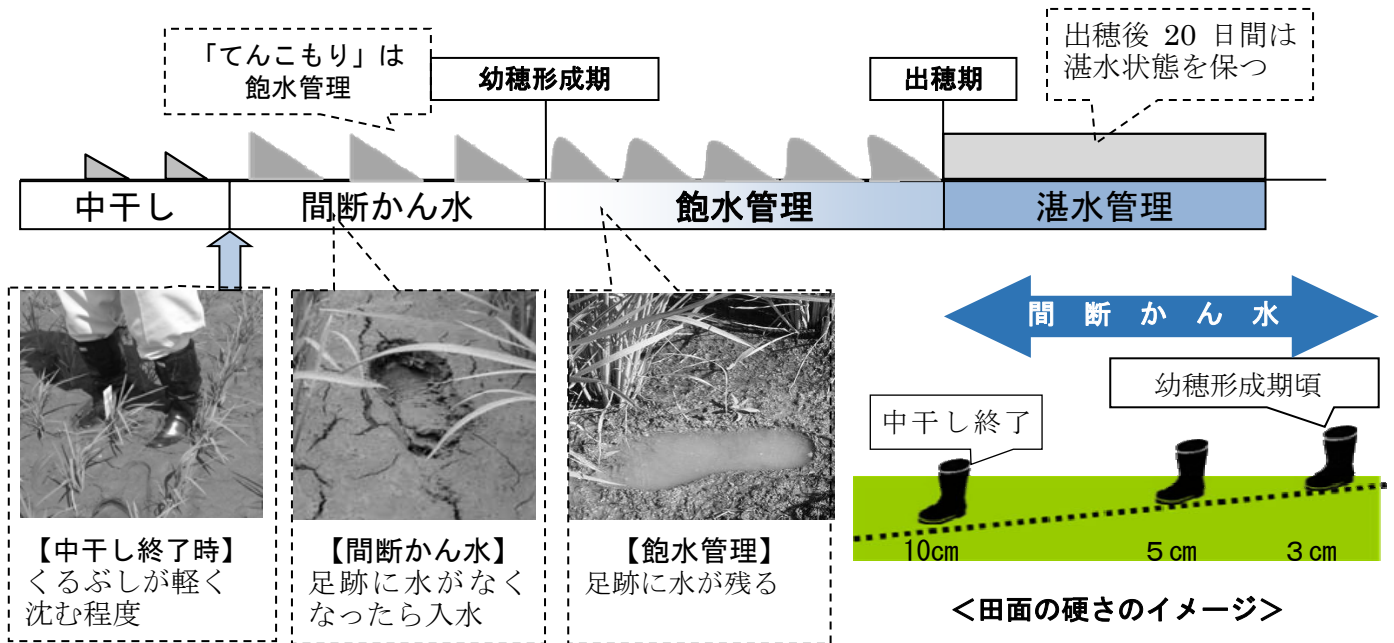
## 2 紋枯病防除

- ・穂ばらみ期(早生：7月初旬、てんこもり：7月下旬)に発病株率が高い(早生：5%以上、てんこもり：15%以上)ほ場は、追加防除を行いましょう。
- ・防除の際は落水し、薬剤が株元まで届くよう散布しましょう。また、周辺に飛散しないよう注意しましょう。

防除薬剤：バリダシン粉剤DL、散布量：4kg/10a

## 3 水管理

- ・中生・晩生：中干し終了後は、「間断かん水」を行い、幼穂形成期までに足跡の深さが3cm程度となるようにほ場を干し上げましょう。
- ・早生：幼穂形成期から出穂期までは、稲の水分要求量が高まるため、「飽水管理」に切换え、水不足に注意しましょう。ただし、葉色が濃い、茎数が多い場合は7月上旬ごろまで落水期間が長めの「間断かん水」としましょう。



※例年、山際を中心に中干し後干しすぎのほ場が多くみられます。「間断かん水」と「飽水管理」を徹底し、上根の発達と健全化に努めましょう。

## 4 草刈りや大麦跡ほ場の管理の徹底

- ・休耕田や畦畔等は早生の出穂2週間前までに草刈りを終え、それ以降は、雑草の穂が出ないように草刈りをしましょう。
- ・麦跡等の不作付地は、緑肥等の栽培による有効活用や適正な雑草管理(7月初旬までの耕起等)を行い、カメムシの増殖を抑えましょう。
- ・水田内にヒエ等イネ科雑草やホタルイが発生している場合は、出穂前に除去しましょう。

### 草刈運動期間

7月1日(土)～10日(月)

一斉草刈日

1日(土)・2日(日)

アカスジカスミカメ



大麦跡で多発

○斑点米カメムシ類の発生状況 (6月21日調査)

		R 5	平年
雑草地	発生地点率	60.0%	84.2%
	平均頭数	0.3頭	4.6頭
大麦跡	平均頭数	5.5頭	—

※平年 H25～R 4

JA なんと  
メールマガジンの  
登録はこちらから

↓↓↓



※詳細については【営農のてびき】を参照して下さい。

お問い合わせは、JA なんと営農部(62-0261)または砺波農林振興センター(32-8147)へ